

## 映像と通信の融合をもたらす AV 新商品 , 新技術

### New AV Products and Technologies to Integrate the Broadcasting and Communications Networks

2000年12月に始まったBS(放送衛星)デジタル放送に引き続いて110度CS(通信衛星)デジタル放送が開始されました。更に,2003年に向けて地上波デジタル放送とこの付加機能としての移動体受信向け放送,そしてモバイル放送用衛星を経由したモバイル放送と,放送の多様化が進んでいます。このようななかでデジタル化に伴い導入されたデータ放送(双方向機能)や蓄積機能を活用する新たな市場が創設されつつあります。

一方,インターネットに代表される通信分野では,ネットワークの広帯域化,いわゆるブロードバンド化の波が有線だけでなく無線にまで拡張され,映像のストリーム配信やダウンロード配信が日常化しつつあり,上記の放送の状況とあいまって,デジタル化とユビキタス<sup>(注1)</sup>化をキーワードに映像と通信の融合が始まっています。

このようなトレンドを,一般消費者にとって真に価値あるものにするために,そしてその結果として新市場を確固たるものにするために,当社は新しいAV技術の開発に取り組んでいます。すなわち,

- 今後のホームサーバへ道を開いていく“ワイヤレスホームメディアステーション TransCube<sup>TM</sup>10”と“epステーション<sup>TM</sup>(注2)”
- いつでもどこでも視聴可能に道を開く“液晶カラーテレビ”,“携帯型ハードディスクオーディオプレーヤー”そして“ワイヤレスモバイルAVストレージ”
- 大容量データすなわち高精細映像の記録を可能にする“次世代大容量青色レーザー光ディスク装置”
- 特に映像コンテンツ配信を活性化させる“映像ストリーム伝送技術”と“デジタルコンテンツ保護技術”

などです。

この特集では,これらの新しいサービス・市場を生み出せる機器類,そしてこれらの要素技術及びコンテンツの流通に不可欠な技術を紹介します。是非,ご一読のうえ,ご使用いただき,ご助言,ご指導をお願いいたします。

(注1) “いたるところにある,遍在する”などを意味するラテン語が語源で,どのようなメディアやデバイスも,いつでもどこでもネットワークにつながっていることを象徴することばとして用いられている。

(注2) epステーションは,イーピー(株)の商標。



田辺 正人  
TANABE Masato